

## 平成 29 年度第 1 回伊勢志摩定住自立圏推進協議会 議事録

日時：平成 29 年 12 月 27 日（水）15：00

会場：志摩市商工会館 1 階 多目的ホール

(進行役：中川情報戦略局長)

お待たせいたしました。

定刻になりましたので、ただいまから、伊勢志摩定住自立圏推進協議会を始めさせていただきます。

本日は、皆様方におかれましてはご多用のところお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。

私は、本日司会を務めさせていただきます、伊勢市情報戦略局の中川と申します。議事に入るまでのあいだ、しばらく進行させていただきます。よろしく願いいたします。

それでは、私の方から、本日も出席いただいております方々をご紹介します。

鳥羽市長 中村 欣一郎（なかむら きんいちろう）様

志摩市副市長 小山崎 幸夫（こやまざき ゆきお）様

玉城町副町長 小林 一雄（こばやし かずお）様

度会町長 中村 順一（なかむら じゅんいち）様

大紀町副町長 服部 吉人（はっとり よしと）様

明和町長 中井 幸充（なかい ゆきみつ）様

そして、伊勢市長 鈴木 健一（すずき けんいち）でございます。

また、本日は残念でございますが公務のご都合により、

南伊勢町長 小山 巧（こやま たくみ）様は欠席でございます。

また、本日は、伊勢志摩定住自立圏の取組におきまして、ご尽力いただいております、

三重県南勢志摩地域活性化局の 重松 玲（しげまつ とおる）局長

三重県松阪地域防災総合事務所の鈴木 雅弘（すずき まさひろ）副所長

三重県地域連携部地域支援課の 後田 和也（うしろだ かずや）課長

皆様にご臨席を賜っております。ありがとうございます。

それでは、会長から、議事の進行をお願いいたします。

(会長：鈴木伊勢市長)

皆さん、こんにちは。

本日は年末の大変お忙しい中にもかかわらず、第1回推進協議会にご参集いただきまして、誠にありがとうございます。

伊勢志摩定住自立圏構想については、4年が経過しようとしておりまして、皆様方にお力添えをいただいておりますこと、深く感謝申し上げます

それぞれ地域の行政課題があることかと思えますけれども、やはり多くは人口構造の変化、人口減少であったり、少子化・高齢化の問題、また財政的な課題、こういったものが様々にあることかと思えます。

今後引き続き皆様方のご意見を賜りながらお互いが切磋琢磨し、協力しながら良いまちづくりに繋がられればと思えますのでよろしくお願いを申し上げます。

それでは、議事に移らせていただきます。

まずは、(1)伊勢志摩定住自立圏共生ビジョンの取組状況について事務局からご説明いたします。

(事務局：辻 情報戦略局参)

それでは、議題「(1)伊勢志摩定住自立圏共生ビジョンの取組状況について」ご説明申し上げます。

お手元の資料1-1「平成29年度伊勢志摩定住自立圏共生ビジョン取組事項一覧(事業費)」をご覧ください。

これは、平成29年度の共生ビジョンに掲げる取組事項と、その事業費の一覧でございます。取組事項ごとに、全体額及び各市町の事業費を記載しております。伊勢市の欄の右横の「計」は、連携7市町の事業費の計で、そのうち、伊勢市が支出した事業費に対して応分の負担をいただいているものについては、備考欄の左横にその金額を記載しております。

取組事項は、左端の区分欄の、生活機能の強化に係る政策分野が15件、結び付きやネットワークの強化に係る政策分野は12件、圏域マネジメント能力の強化に係る政策分野は3件の計30件で、4番の「在宅医療・介護連携の推進」と11番の「創業に関する支援」の2件が、今年度新たに追加した取組事項でございます。

なお、取組事項における具体的な取組内容として、23番の「地産地消の推進、地場産品のPR」において「地産地消の学校給食」を、24番の「圏域内外への地域情報などの情報発信」として、「伊勢志摩ご当地ナンバー」に係る内容を追加しております。

続きまして、共生ビジョンの進捗状況についてご説明申し上げますので、資料1-2をご覧ください。

これは、共生ビジョンを政策、施策、取組事項の区分で整理した体系図でございます。

取組事項の進捗状況についてご説明申し上げたいと思いますが、資料の見方をご説明いたしますので、18 ページをご覧ください。

表の上覧から、取組事項の名称、連携市町、現状と課題、事業の概要等を記載しています。真ん中よりやや下には、「実施スケジュール」として、具体的な内容と、実施期間、また昨年度の実績を踏まえた進捗状況の評価を記載しています。なお、進捗状況は、「A：順調」、「B：遅れている」、「C：進んでいない」、「D：実施終了」の4種類から選択するようになっています。

全体の進捗状況といたしましては、順調に進行している状態ですが、23 ページの「ファミリーサポートセンターの利用促進」、28 ページの「創業に関する支援」、29 ページの「鳥獣被害防止対策」、43 ページ「図書館サービスの新たなしくみ構築」、45 ページ「職員研修の合同開催」が「B の遅れている」状況で、37 ページ「宮川架橋の建設促進」が「進んでいない」状況でございます。

続いて資料 1 - 3 をご覧ください。

これは、先ほどご報告いたしました、急遽、今年度に追加いたしました「ご当地ナンバーの導入に向けた取組について」の資料でございます。

ご当地ナンバーに係る取組につきましては、既にご承知と存じますが、その概要について改めてご説明させていただきます。

ご当地ナンバー導入の趣旨につきましては、資料のとおり、伊勢志摩サミットを機に、「伊勢志摩」の名を継続的に情報発信し、地域振興・観光振興に役立てることを目的として、ご当地ナンバーの導入に向けた取組を県及び周辺市町とともに進めようとするものでございます。

ご当地ナンバーに係るこれまでの経緯につきましては、資料の 2 「ご当地ナンバーに係るこれまでの経緯」のとおりでございます。8 月から 10 月にかけて各市町で住民アンケートを実施し、その結果を踏まえて 11 月 13 日に各市町から県に対して地域名表示の追加を要望し、17 日には県から国土交通省に対して導入意向の表明を行っております。

なお、対象地域については、アンケートの結果等によりまして、最終的に資料の 3 のとおり 3 市 4 町で進めることとなっているところでございます。

「新たな地域名表示導入の基準」につきましては、図柄入りナンバープレートをあわせて導入することを原則としております。

伊勢志摩ナンバーへの賛否について「賛成」、「どちらかといえば賛成」を合わせた 77% の方が賛成意見となっております。図柄入りナンバーの交付希望者につきましては、「希望する」、「図柄によっては希望する」をあわせて 68% の方が希望されるという結果でございました。

次に今後の流れ（予定）について資料の 5 をご覧下さい。

今後、来年3月の間に県は国土交通大臣に新ナンバープレート導入の申込みを行うこととなっております。そして、来年7月頃に導入地域が決定し、図柄の提案を来年12月末までに行い、平成32年度に決定、新ナンバープレートの交付は平成32年度中を目途とされています。

こうしたなか、定住自立圏の具体的取組といたしましては、平成29年度においては、住民アンケートの内容を協議、実施し、共生ビジョンには、当該アンケートに係る事業費を計上しております。来年度については、図柄のデザインに関する内容を連携市町で進めたいと考えております。

以上が、ご当地ナンバー等に係るご説明でございます。

次に、資料1-4をご覧ください。

こちらには、伊勢志摩定住自立圏共生ビジョン懇談会の状況を記載しています。

上段は、共生ビジョン懇談会の委員名簿でございます。中心市の伊勢市からは10名、連携市町からは各市町お一人ずつの、計17名の委員構成となっております。

今年度は、5月22日と12月7日の2回開催しております。会議でいただいたご意見等を、資料の下段に、分野ごとに整理させていただきました。

「観光交流」の分野では、2件のご意見をいただきました。1つは、この圏域内も含め、三重県内では大きなイベントが続いており、県内を訪れる人が増えています。それを一過性のものとせず、訪れた皆さんをリピーターに繋げるような効果的な取組を圏域で考えていくことが大切であるというものでございます。

もう1件は、取組の連携に関するご意見で、鳥羽市さんのように漁業と観光という分野を超えた産業間の連携を進めることで、より効果的な取組ができるのではないかとのご意見でございました。

「農林漁業」の分野でも2件のご意見がありました。1つは、農業、水産業の高齢化が顕著で、地元特産品を生み出せる自然環境があるにも関わらず、従事者がいないという厳しい状況になってきていることが圏域の大きな課題というご意見でした。

もう1件は、鳥獣被害防止対策について、各市町で実施しているものの、被害が増えている感があるので、効果的な連携対策を実施する必要があるとの意見でございました。

「人材育成」の分野では、圏域の人口減少に歯止めをかけるには、圏域内で仕事をし、生活する人を育成していくことが大切であり、例えば南伊勢高校が行っているようなSBP活動、SBPとは、Social Business Projectの略称で、高校生等が地域の課題をビジネスの手法を用いて解決する取組のことですが、このSBP活動を支援するような取組を考えていくことが大切であるとのご意見でした。

説明は、以上でございます。よろしくお願いたします。

## (会長)

ただ今の説明に関しまして、ご意見、ご質問等ございましたら、お願いしたいと思います。

特にないようでしたら、次の議事に移らせていただきます。

それでは、「第2次伊勢志摩定住自立圏共生ビジョンの策定（案）について」事務局からご説明いたします。

## (事務局)

それでは、まずお手元の資料2-1伊勢志摩定住自立圏 経過及び予定をご覧ください。

伊勢志摩定住自立圏につきましては、平成25年に伊勢市が中心市宣言を行った後、推進協議会の設立、ビジョン懇談会を行い、平成26年6月に現在の伊勢志摩定住自立圏共生ビジョンを策定いたしました。

その後、各年度において、ビジョン懇談会及び推進協議会を開催し、その意見等により共生ビジョンを変更してまいりました。平成27年6月に第1回目の変更を、28年6月に第2回目、今年6月に第3回目の変更を行った後、ご当地ナンバーの取組を急遽追加いたしましたので、10月に第4回目の変更を行っております。

以上のように、定住自立圏の目的を推進するための具体的な取組を定めた共生ビジョンについては、取組事項の追加、具体的な内容の修正等により変更を行ってきたところですが、現在の共生ビジョンは、5年間の期間となっております。来年の30年度が最終年度となります。そうした中で、圏域の課題に対応していくためには、計画期間終了後も引き続き具体的な取組を進めていく必要がありますことから、次期共生ビジョンの策定を計画しております。

資料2-2をご覧ください。

これは、第2次伊勢志摩定住自立圏共生ビジョンの策定（案）でございます。

先ほど申し上げたとおり、伊勢志摩定住自立圏共生ビジョンにつきましては、平成30年度が最終年度となりますが、圏域の課題に対応していくためには、引き続き各取組を推進していく必要がございます。そのため、次年度において、資料のとおり第2次共生ビジョンの策定を進めたいと存じます。

策定の方針でございますが、資料記載のとおり、計画期間は平成31年から平成35年度までの5ヵ年とします。

次に、「構成内容」につきましては、現行の共生ビジョンを踏襲するものとし、必要に応じて所要の見直しを行います。

「各取組」につきましては、現行の共生ビジョンで推進しております各取組について、継続するもの、廃止するもの又は新規に取り組むものを検討し、改定を行うこととします。

策定のスケジュールでございますが、「4策定スケジュールの概要」をご覧ください。

まず、来年5月の共生ビジョン懇談会の後に、各部会において取組を検討し、8月の共生ビジョン懇談会にて、現行の共生ビジョンの総括の報告を行うとともに、第2次共生ビジョン（案）についてご説明いたします。

その際にビジョン懇談会委員からいただいた意見をもとに修正した案を9月、10月のビジョン懇談会にてご報告し、第2次共生ビジョン（案）を決定させたいと考えております。

なお、9月、10月のビジョン懇談会については、会議の進捗状況に応じて、開催回数等調整する予定でございます。

懇談会にてビジョン案を決定した後、11月に推進協議会を開催し、首長様方の合意を得て、12月にパブリックコメントを実施。その結果を、平成31年1月のビジョン懇談会で報告し、2月には本市の市議会に報告したいと考えております。

第2次共生ビジョンに協定変更が必要となる新たな取組があった場合は、各市町議会の議決が必要となりますので、現在と同様、3月議会に上程していく予定でございます。

以上でございます。

(会長)

議会の議決についてはどのようになるのでしょうか。

(事務局)

協定変更する場合には議決が必要となりますが、共生ビジョンの変更については必要ございません。

(会長)

他にいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、「(3)伊勢志摩定住自立圏についての情報交換及び提案」でございます。情報交換の場ということで、皆様からご意見、ご感想など、自由にご発言をお願いしたいと思います。

(中村鳥羽市長)

ご当地ナンバーの関連で、本日の新聞で志摩市さんが原付のご当地ナンバーを自分達で作ったということですが、とても良いデザインだと思います。そのあたりのお話を聞かせていただければと思います。

(小山崎志摩市副市長)

デザインナンバープレートということで、50cc 以下、それから 125cc 以下というなかで、来年の 1 月 4 日から交付することとしております。これは伊勢志摩サミット開催 1 年経過ということを経目とするなかで、市の若手職員に集まっていただき、そのなかのメンバーで会長には女性の方がなり、その方が中心となってデザインを考案したものです。こういったナンバーで志摩市を PR していこうということで基本的には伊勢えび、海女さん、アコヤガイと、この 3 点をプレートの中にデザインしております。

ナンバーの交換は無料ということで PR をさせていただいているところでございます。

(会長)

ありがとうございます。その他ございますか。

(中村度会町長)

創業に関する支援の取組について、セミナーの開催状況等どのぐらい進んでいるのでしょうか。

(事務局)

セミナーについては 2 月に東京のふるさと回帰支援センターで開始予定でございます。また、情報収集については連携して今年度中に実施する予定ということで、若干遅れているようなところでございます。

(会長)

他にいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

(中井明和町長)

学校給食の地産地消の取組について、具体的にどうなんでしょうか。いつごろからという中で、それぞれ農業漁業を含めて活性化を図っていかねばならないという中で一つの起爆剤と思っていますので、会長の考え方をお願いします。

(会長)

定住自立圏の各市町でそれぞれ特産品があろうことかと思えます。お互いを知ることからも、子ども達の学校給食からですね、全市全町ベースであると大変なので、1 校ベースからでもかまいませんので、お互い食材交換して給食交流ができないかと考えております。子ども達が、この地域・隣町のことをもう少し知ってみようというそんな企画になればと思ひまして、それぞれの教育委員会さんにも協力をお願いして実現できればと思っておりますのでよろしく申し上げます。

事務局の方から具体的な話があればお願いします。

(事務局)

取組は進めているとのことで、地場産品を使用したメニューのレシピを既に配布したとのことで、もう間もなく2回目を配布するということを教育委員会から聞いております。

給食の食材交流について、また教育委員会に経過を確認します。

(会長)

その他よろしいでしょうか。重松局長何かよろしいでしょうか。

(重松局長)

伊勢志摩ナンバーの取組は、本当に皆様ありがとうございます。住民アンケートをしていただきまして、住民の皆様のご意向に沿って進めていただけるということで県としてもありがたく思っておりますので、この場をお借りしまして御礼を申し上げます。よろしくをお願いします。

(会長)

ありがとうございます。

それでは、意見交換はこの程度にさせていただきます。その他事務局から何かありますか。

(事務局)

それでは、協議いただきましたように来年度は、次期共生ビジョンの策定を進めていきたいと考えております。今後、策定にあたり関係市町の皆様にご協力をいただきたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

また、本日の協議会の結果につきましては、後日、伊勢市のホームページに掲載させていただきます。

以上でございます。

(会長)

よろしいでしょうか。

それでは、来年度のビジョン策定につきましては皆様にご尽力いただきますけれどもよろしくお願いいたします。

来年は良いお年を、本日は、ありがとうございます。